

# すばる主焦点カメラ撮像データアーカイブ化進捗状況 Suprime-Cam Data Archive Progress

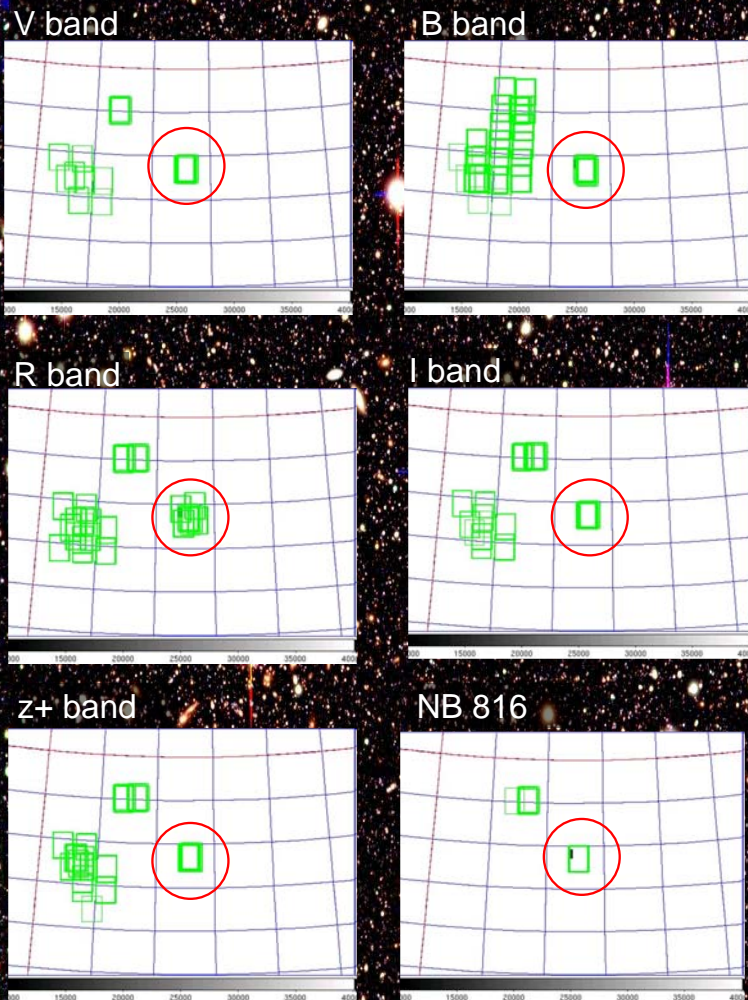
日下部 展彦(国立天文台)

すばる望遠鏡は良質のデータを量産しており、その徹底的な活用が求められる。現在行われている生データの公開に加え、品質保証付きの一次処理済みのデータアーカイブも期待されている。特に、他の8m級望遠鏡にない広視野撮像を可能にしている主焦点カメラのデータに対する要求は、国内外を問わずきわめて強い。そのため、現在、多波長で重要な観測が集中しているLockman Holeのデータ処理およびそのカタログ化を進めている。本発表ではこの領域におけるカタログデータの進捗状況を報告する。

## 領域の選択

Lockman Holeの領域は系内で吸収が少ない領域であり、アーカイブにアップされているデータを用い、これまでのデータを全てかさね合わせることで、最も深く、多波長にわたるカタログを作ることができる。そのため、どの領域を解析するかをリストした。

R.A. 10:35:00  
Dec. +58:00:00 付近を中心に検索



ブロードバンドで最も枚数の多かった領域(上の赤丸)を選択し、解析を行っている。

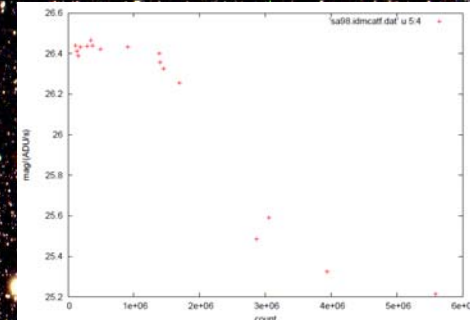
RA: 158.54, Dec:57.70 (J2000)  
L: 151.60, B:51.10 (Galactic) 付近の領域

## 測光

重ね合わせた画像を元にIRAF/DAOPHOTで測光

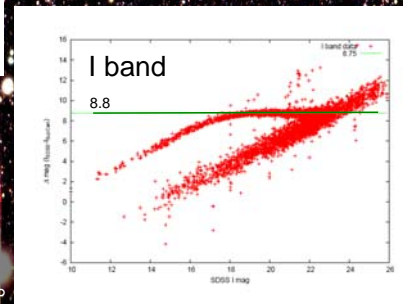
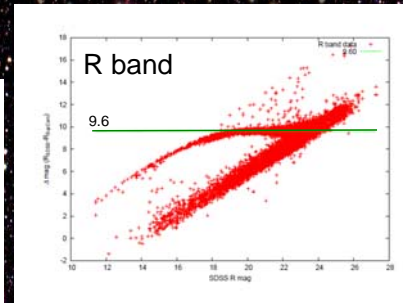
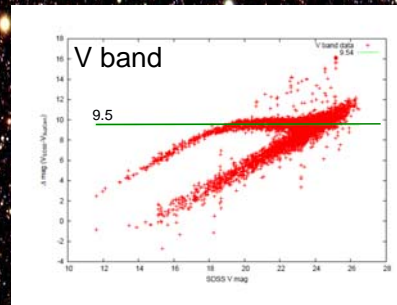
標準星のデータがあるデータでは標準星からゼロ点を求める。

V bandの標準星測光



標準星のデータがないものではSDSSのアーカイブから相対測光。VRIバンドにおいてSDSSと比較した。

「星」のデータで、19~21magの領域でフィッティングをして等級校正を行った。



## 進捗状況

B,V,R,Iのデータの一次処理終了。

BVR三色合成図作成(ポスター背景)。

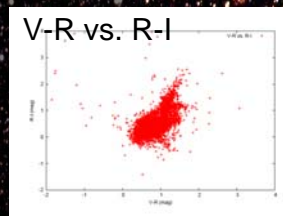
WCSをそれぞれの画像に埋め込み完了。

V,R,Iの最初の測光完了。

SDSSとの相対測光からゼロ点を求めた。

WCSの情報を元に、測光したデータから3色の測光データにおける同じ天体を同定。

SDSSでゼロ点をあわせた2色図を作成。



## 今後の予定

- ・ゼロ点の評価。
- ・今年度中にB,V,R,Iのカタログのβ版を目標。